

2月如月を迎えました。四日は立春、暦の上では春ですが、実際はここからが寒くなりますね。寒さ対策、インフルエンザ対策、〇〇対策・・・細心の注意を払って厳しい季節を乗り切りましょう。



「春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山際、少し明かりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。」(春は明け方がよろしいなあ。だんだんと白くなってゆく山際のお空が、少し明るうなって・・・) 清少納言・枕草子の冒頭ですね。さてインフルエンザが猛威を振るい騒然となった1月でしたね。巽先生もおっしゃってますが、変異株が発見されました。一度罹(かか)ったからといって安心はできません。手洗い・うがい・マスク十分気をつけていきましょう。

【ニュース】

1. 診療日の変更をお知らせします。

今月の休診・診察医の変更はありません。

2. 大橋倫子(みちこ)先生が研修に来られます

堺市立総合医療センターの研修医大橋倫子先生が地域医療の研修に来られます。期間は、2月4日(月曜日)～13日(金曜日)です。とても張り切っておられます。皆さん、期待してお迎えくださいね。

3. 市民公開学習会のご案内

「地域の高齢者困りごと、どこに言うて行こっ!？」

日時：平成31年3月2日(土曜日) 14時～16時40分

場所：ウエスティ(堺市西文化会館) 7階セミナールーム

入場料：無料

- ① 「高齢者の困りごと」解決の地域づくりをめざして西区の3地域包括支援センターを中心としたシンポジウム
 - ② グループワーク「高齢者の困りごと解決の地域づくり」
- ※ 当日は、各種相談窓口の情報もお知らせします。

【ミタクリ漢方 漢方薬に健康保険が適応されている意味を考える その1】



現在は、当たり前のように私たちの処方する漢方薬に健康保険が適応されていますが、その歴史をふりかえりたいと思います。まず1960年(昭和35年)に生薬約150種が保険薬価に収載されました。この段階で、医師はようやく漢方薬として、この生薬を処方することで保険請求ができるようになりました。しかし、例えば葛根湯を処方しようとしても「葛根湯」として保険請求はできず、「カッコン3g、マオウ3g、ケイヒ3g、シャクヤク4g、タイソウ3g、ショウキョウ2.5g、カンゾウ2g」としてしか請求はできなかったわけです。これではハードルは高いですね。1967年(昭和42年)、ついにエキス剤として6種類(小太郎製薬)が健康保険に適応になりました。小太郎製薬は、1957年(昭和32年)に日本で初めて漢方エキス製剤を発売しましたが、その中の6品目が保険適応になったわけです。そして、1976年(昭和51年)に津村順天堂(現・ツムラ)の33品目、小太郎製薬の21品目が保険適応になりました。

この間の経緯について、当時の医師会長武見太郎先生が厚生省にゴリ押しで健康保険適応を勝ち取ったと言われてますが、国民皆保険制度が成立したのが1961年ですから、生薬の保険適応の方が一年早かったことがわかります。制度に無理矢理ねじ込んだという指摘は間違っています。また、1976年の前には、漢方薬に広く健康保険適応を、という国民的な運動が起こり、全国の数多くの患者さんから署名が集まったことが大きな力になったことを改めて強調したいと思います。私はまだ高校生でしたが、住之江の加賀屋の町を署名用紙を手にもったことが懐かしく思い出されます。では、なぜ武見太郎先生が漢方薬の健康保険適応にご尽力いただけたか、です。それは先生が主治医を務められた作家の幸田露伴氏のお宅に往診に行くたびに「漢方医学がいかに日本に必要なか、その火を絶やしてはならない」とおっしゃっておられたことが大きかったと振り返っておられます。(次号に続く)

【欣子先生の診察室だより フロム イラン】



インフルエンザ大流行です。どうやら A 型で 2 種類のウイルスが確認されたようです。A 型にかかって B 型にかかってまた A 型・・・?ほんまに?という方がおられました。そういうことだったのですね!この時期はノロウイルスも多くなる季節ですので手洗い、うがい(少しずつ水分を取るのも有効)徹底してくださいね。手洗いといえば気になるのは公衆トイレのジェットタオル(あの風でぶーんと水分をとばす機械)です。ノロウイルスは乾燥しても感染性が強いので吹き上がるタイプだと絶対吸い込んでしまいます。なので私は息を止めて退散します笑!ハンカチを忘れず持参しましょう。

さて・・・恒例の年末年始、今年はイランです。大変な旅行でした汗!～というのは成田空港の話です。夜ドーハ行きの飛行機に一旦乗り込んだのに機材のトラブルで欠航が決まり全員降ろされました。代替機もなく、年末でもあり宿泊のホテルも用意できません!と、なんと寝袋とカップヌードル 1 個を渡されました・・・これって(・・・涙)。ベンチも人であふれていたのに泣く泣く寒い通路で寝ることに。翌日同行の方が粘り強く航空会社に英語で交渉してくれたおかげで大阪の上空を飛行して(またまた涙)香港経由ドーハからテヘランに行く代替便で 1 日遅れで旅行がスタートしました。イランに行く～というと「なんでそんな危ないところ!」と言われるんですけど、栄華を誇ったペルシャ帝国ですから、ペルセポリスをはじめとする世界遺産・自然も豊か、羊肉やピスタチオなど食べ物もおいしい、アルコールが禁止なので酔っ払いに絡まれない(夜も女性ひとりで安全に歩けます。若い人たちは、夜カフェでソフトクリームや甘いものを食べながらお喋りするらしく、糖尿病が多いと!笑)。SNS は国が規制しているけどいろんな手段で網をかいくぐって楽しんでいます。今回なにが良かったって、一番はイラン人の人柄です。今回のガイドさんは間寛平ちゃんが走って世界 1 周してたときにイランの部分を担当したんですって。で、寛平ちゃんともう一人が田舎を走っていると、たくさんの村の人が「車で送ってあげよう」とか「うちにごはんを食べにこい」とか声をかけるんだそう。イランの人は孤独な人とか困ってそうな人はほっとけないんですって。なのでこの企画をいちいち説明するのが本当に大変だったそうです。そんな話を聞いていてほんまかなあと思いつつながら、ある田舎の村でラクダの毛を紡いで織っている工房に突然訪問したのですが、そこで作業していたおじさん(写真)、いろいろ説明をしてくれたあと、「うちにランチに来ないか?」・・・ほんまに言うんや!驚きました。日本で“おもてなし”って言うけど、こんなおもてなしできますか?

私は世界の旅をなんで皆さんにこうやってお伝えしているのか・・・今回その意味がはっきり自覚できました。イラン=怖いというイメージだけだと今、そこで戦争が始まっても、無関心か下手すると加担してしまうかもしれないのです。でもその国の歴史や習慣、普通の人の温かさを知っていれば無用な争いはできるはずはありません。ジャーナリストが危険といわれる地域に行ってこの目で見て伝えたい理由ってこういうことなんかな・・・私のただの旅行記でも読んだ方のイラン=怖いが払拭できれば、ささやかな平和活動といっているといいですよ(笑)。

【外来担当医一覧 2019年 2月現在】

予約電話番号：072-260-1601

診察受付時間	月	火	水	木	金	土
午前 (9:00-11:00)	巽 米本	米本 三谷	巽 三谷	巽 米本	巽 三谷	三谷
午後(14:00-16:00)	巽(予約) 米本(訪問診療)	巽(訪問診療)	巽(予約) 三谷(訪問診療)	巽(訪問診療)	巽(予約) 米本(訪問診療)	
夜診(16:30-18:30)		三谷	三谷		三谷	